Top Interview

ただ作って売るだけの町から脱皮して
川根茶を生かしたまちづくりを考えたい
お茶の輝きが人の輝きにつながるような町へ

この町は、恵まれた自然環境を生かして古くから良質な茶を生産してきました。しかし現在、茶の消費の低迷や、品質の維持、省力化への取り組みなど、課題も多く抱えています。日本一という称号におごることなく、川根茶の将来を見すえた行動を起こす時だと感じています。

今までは作って売るだけの生産地でしたが、これからは、お茶を「楽しむ」という、本来の人間の暮らしを見直しながら、新しいまちづくりを考えていきたい。町の人も町外の人も、いろいろな人が関わり合い通じ合う。そんな町にしていきたいと思っています。

お茶は人と人とを紡ぐ「和」の飲み物と言った人がいます。お茶を飲みながら会話を楽しむ。お茶畑を眺めながらゆったりとした時間を過ごす。そういったお茶を楽しむ文化が昔からこの町には存在していました。もう一度この町の一人一人が、お茶の価値を見直し、原点に立ち返ることが必要なのです

最近皆さんから、さまざまな意見をいただきます。「商店街に一服処を設けてみれば」「お茶づくしの弁当があるといい」「文化祭の名前を川根茶祭りにしたらお茶の町らしいね」など。こういったアイデアは、すべてまちづくりの種なんです。きっと皆さんの中には、あっと驚くようなアイデアがたくさんあることでしょう。そしてその中には、この町を活気づかせる救世主的なアイデアも含まれているのです。そんなまちづくりの「種」をたくさん拾い上げたい。そしてこの町の未来に生かしていきたい。それがわたしたち行政の使命です。

現在、エコツーリズムで実施している「自慢のポイント探し」もまちづくりの一つの形です。茶畑と大井川など自然に親める場所、農家の縁側でお茶を楽しむ時間、おいしいお食事とおいしいお茶、お茶を飲みながら大勢で会話を楽しむ…。そういうことができる場所を皆さんに教えてもらうことに意味があります。まちづくりのきっかけは、自分も関わっているんだと実感できることから始まります。

「わたしにも出来そう」と、みんなが思えることが大事なんです。これからこの町に、川根茶を感じられる場所をたくさん創っていきたい。本町は自然条件に恵まれた町です。茶づくりに情熱を傾ける人がたくさんいる町です。川根茶の輝きは、人の輝きにつながります。自分は川根茶とどう関わることができるかを、みんなで考える町にしていきたいと思っています。

川根本町長
杉山嘉英
Sugiyama Yoshihide

川根茶をまちづくりへ―
川根茶業振興協議会長として
まちづくりのリーダーとして
川根茶を愛する一人の町民として
この町の未来をどう考えていくか
杉山嘉英町長に聞いた

緑のふるさと協力隊員
として、本町に一年間滞在中
中野千江さんが
考える
わたしにもできること

緑のふるさと協力隊隊員
中野千江さん
Nakano Chie
札幌市

「緑のふるさと協力隊員」としてNPO法人地球緑化センターから派遣されている中野千江さん。農林業や観光事業の協力活動を通して、本町のまちづくりのために奮闘中。日本茶インストラクター。本誌「ちえのわ」執筆者。

川根本町に来る前は、札幌市でお茶の販売員をしていました。その時に日本茶インストラクターの資格を取り、自分なりにお茶に詳しくなったつもりでした。でも実際にお茶の産地に来てみて、お茶づくりがこんなに大変なんだということを思い知らされました。「今年は茶価が安かった」と、皆さん口を揃えるように言いますが、わたしたちのような消費者には、その現実は伝わってきません。毎年お茶は、価格を変えることなく店頭に並ぶからです。そしてわたしが一番驚いたのが、たとえ前日より良いお茶ができたとしても、価格が上がることは稀(まれ)ということです。

「どうせ値が下がるならこの程度でいいか…」と思いませんか?と、皆さんに聞いたことがあります。返ってきた答えは「そんなこと考えたことはない」というものばかりでした。皆さん、「川根茶を作っている」という誇りがあるからだそうです。

こちらに来たばかりの頃はお茶を作りたいと思っていましたが最近では、皆さんのこだわりの川根茶を何とか全国の人たちに届けることができないかと考えています。たとえば川根本町に来た人に、あそこに行けば1日で川根茶を体験・買い物ができるスポットをたくさん案内できるとか、お茶以外の産業とコラボレーションして、自分で木のコースターやお茶碗を作ってお茶を楽しむとか、または「温泉とお茶」なんていう組み合わせも楽しいかも、と考えるだけで一人ワクワクしています。わたしを含め、日本全国に日本茶インストラクターとしてお茶の魅力を広めたいと思っている人たちがたくさんいます。まずは、このような人たちに川根茶の魅力を知ってもらい、それぞれの地元でアピールしてもらう。そして川根茶のファンを増やしていきたいです。

わたしにもできる小さな一歩。今から踏み出してみようと思います。

菊川茶の明るい未来を描きたい　●他市町村のまちづくり事例

牧之原大地に広がる大茶園。遠州のからっ風と恵まれた太陽の光りの中で育つことで、アミノ酸をたっぷり含み、葉肉が厚い菊川茶が育ちます。この茶葉で作る「深蒸し茶」は、深い緑色と豊かな香り、渋みを抑えた上品な味わいが特徴で、これまで多数の賞を受賞してきました。

イメージキャラクター　ちゃこちゃん

平成３年には、菊川市出身の漫画家小山ゆうさんが菊川茶のイメージキャラクターとして「ちゃこちゃん」をデザインしてくれました。現在さまざまな方面で活用されています。

菊川市では、今年度新たに茶業振興室を設置しました。これは、今まで所管が分かれていたお茶の生産部門とＰＲ部門を一元化することで総合的な振興策を企画し、より一層の茶業振興を図っていくためのもの。「ちゃこちゃん」を生かした菊川茶ブランドの確立や、まちづくり、茶園の再整備、安全安心なお茶づくりなどに取り組んでいます。

お茶は菊川市の誇り、そしてまちを象徴するものの一つです。生産者や茶商、JAなどと連携し、菊川茶の明るい未来を描いていきます。

菊川市役所茶業振興室　**杉山勝室長**
Sugiyama Masaru